

誰もが活躍できる社会にむけて

よかぜ
No.44

前回の男女平等推進情報「そよかぜ」No.43にて、日本のジェンダーギャップ指数が平成30年は世界149か国中110位とお伝えしましたが、令和元年12月に発表されたジェンダーギャップ指数は153か国中121位となりました。『経済分野』では、117位から115位と順位を上げたものの、『政治分野』が低いため、主要先進国の中においては依然として最下位となっています。

日本では平成28年に女性活躍推進法が制定され、企業などの雇用主に職業生活における女性の活躍を推進する取り組みを定めました。では、女性が活躍できる社会を実現するためには、具体的に何が必要でしょうか？

現在、朝霞市内で活躍されている方々にインタビューしました。今までの苦勞や、やってきて良かったこと、これから誰もが活躍できる社会のために必要なことなど、貴重なお話を伺いました。

プロフィール

- 45年前ご夫婦一緒に事業を開始。2年後、夫が病気により他界。小さい子ども2人を抱えながらも、迷いなく事業を引き継いだ。
- 車業界は男性ばかり、負けない気持ちで、従業員とその家族の生活を支えようとまい進。
- 一方、仕事も育児も一人でできることには限界があり、従業員をはじめ、保育園、周囲の人々などに支えてもらい現在に至る。

《今後の目標》

- 体が動くうちは生涯現役でいたい。社会と繋がっているという意識を持てることがとてもうれしい。

くじ すみこ
久慈 須美子さん

株式会社マイカー三喜 代表取締役



日頃、男女共同参画について意識していることはありますか？

男女にはそれぞれ役割があると思っています。男性はどうやっても出産はできないし、筋力では大多数の男性に女性は勝てません。だからこそ、お互いを認め合って、特性を活かせる社会になってくれると良いと思います。



女性が活躍できる社会のために、必要なことは？

女性の意識を変えるだけでなく、それを受け入れる社会が変わることも必要。例えば出産して産休、育休を取っても、また同じポジションに同じ賃金で復帰できることが確約されるなど。そうすれば、もっと女性が活躍できる社会になるのではないのでしょうか。

子育ては、自分だけでなく周りにいる皆で育てる、誰もがそう思える社会になると良いですね。

何よりも、女性が「精神的に自立すること」が非常に大事だと思います。

【Book コーナー】

「+1cm (プラスイッセンチ)」

たった1cmの差があなたの世界をがらりと変える
キム・ウンジャ・著 文藝社

「今」を変えるには、すべてを変えるような大きな行動や期間が必要に思えますが、本当に必要なのは「考え方・ものの見方・日頃の習慣」といった「小さなこと」を少しだけ変えていく力かもしれません。

だとしたら、ほんの「1cm」の変化で、あなたの世界はがらりと変わっていくはず。

あたたかくシンプルな言葉と可愛らしいイラストで、思わずはっとするようなポジティブなヒントをくれる本です。



～♪それいゆぷらざ(女性センター)を

ぜひご利用ください♪～

それいゆぷらざでは、情報・交流コーナーにおいて男女共同参画に関する図書の貸し出しや情報発信(情報紙や講座のチラシの設置・インターネット閲覧など)を行っています。ぜひお立ち寄りください。また、男女共同参画社会の実現などの目的をもって活動する団体と協働を図るため、女性センター団体登録制度があります。

※男女平等推進情報「そよかぜ」は、公募市民の企画・編集協力員と協働し、広報あさか9月号と3月号に掲載しています。

☎/それいゆぷらざ(女性センター)

☎463-2697



かたやま やよい
片山 弥生さん
NPO法人 美えな塾 代表



プロフィール

- 骨盤エクササイズインストラクターの経験から、近年の若い女性の骨盤の変化に危機感を覚え、出産時に無駄な痛みを経験しなくてもいいよう、簡単にケア出来る事を伝え広めたいとNPO法人を立ち上げる。
- 夫と家事や育児を分担することや、友人の協力があつたからこそ、継続してこれた。

《今後の目標》

- 5年間のNPO活動を通して、学生に教える機会も増え、今後は妊娠前の若い女性への普及・啓発を行っていききたい。

日頃、男女共同参画について意識していることはありますか？

子育ては、母親の支援だけではなく父親も一緒でないと、母親の不満も解消できないと感じています。会話のある夫婦は子育てに満足感があります。



男女がお互いを知ることが大事だと感じています。

女性が活躍できる社会のために、必要なことは？

日本の課題でもある少子化の社会で、妊娠・出産において、なぜ「すみません」と罪悪感を抱かなければいけない場面があるのでしょうか。結婚も出産も仕事をしながら安心してできる社会であれば、と思います。

ライフステージにおける女性の選択は自由であり、パートナーだけでなく、社会全体がそれを尊重していくことが大切なのではないでしょうか。



～ある家庭の男女共同参画～

《専業主婦であること》

娘を出産してから現在に至るまで専業主婦でいられるのは、夫の理解があるからこそだと思っています。

自分に収入がないことに引け目を感じたり、色々悩むこともありましたが、夫にその気持ちを正直に話すことで、出産経験も立場も違う夫に理解してもらうことができ、今では負い目を感じることなく堂々と「今は家庭のことに専念する時期だ」と思えるようになりました。

《いろいろな「活躍」の形》

どんな立場でも女性が自分の状況を受け入れ、自信を持つことが大切です。そのためには家族や身近な人が認めてくれることがとても大きな力になり、それが「女性が活躍できる世の中」に繋がっていくのではないかと思います。

妻の立場から



夫の立場から

《専業主婦という仕事》

今、40代で仕事でも責任ある立場に立つと、どうしても仕事優先になるため、専業主婦の妻が家事や育児に専念してくれているのは非常にありがたいです。家事や育児は立派な仕事であり、専業主婦という立場も社会的にもっと認められるべきだと思います。

一方、今後妻にやりたいことが出来たら、どんどんチャレンジして欲しいとも思っていて、普段からそのような話もします。

《女性が活躍できる社会のために》

専業主婦、キャリアアップ、起業など、どの選択をしてもそれぞれの望む生き方が認められ、多様性が受け入れられる環境が社会全体で整えば良いと思います。



今回、掲載しきれなかったインタビューは、市ホームページに掲載しています。

「朝霞市」「そよかぜ」「インタビュー」でぜひ検索してみてください☆

今回紹介した方たちは、きっかけや形は違いますが皆さんそれぞれの生き方を自分で選択し、自立した人生を送っています。「家庭」や「社会」など、さまざまな場所で自分らしく活躍するためには、自分の人生を自己決定する意思や、他者と共存しながらも「自立する」意識が必要なのではないでしょうか。

誰もが活躍できる社会にむけて、一人ひとりの選択を尊重できる社会を目指していきませんか。

そよかぜ協力員感想

- ★色々な場面で、しっかりと目標に向かって、自信をもって、一步一步活躍して欲しいと思います。応援しています。(とつと)
- ★会議ではいつも熱いディスカッションが交わされ、私自身の考え方が更新される有意義な時間を過ごせました。(シオ)
- ★会議は毎回時間が足りないくらい盛り上がり、いろいろなことに気づかされました。女性の「活躍」とは女性がその人らしく「輝く」ことなんだなと思いました！(ペー)